

新任職員研修会 (R3/8/24) アンケート集計 (参加者 19名)

1 あなた自身について

■ **年齢** 10代 3名 20代 4名 30代 3名 40代 5名 50代以上 2名

■ **勤務地** 水俣市 11名 津奈木町 6名

■ **所属機関**

介護保険入所サービス事業所 9名 胎児性患者等地域生活支援事業所 1名 行政関係 2名
医療機関 2名 その他 3名

■ **職種**

介護職 12名 生活(支援)相談員 1名 事務職 1名 行政職 2名 その他 1名

研修を受けようと思った理由

職場の方に受けるのを勧められた 12名 自ら研修内容に興味をもった 4名 その他 1名

2 各プログラムの内容について

研修1「水俣病講話」 (講話:永本 賢二氏)

内容 理解できた 16名 あまり理解できなかった 1名

【コメント】

- ・永本さんの生い立ちから現在までの想いを知ることが出来て良かったです。時間があれば、ほっとはうすで作っていたものは何か、語り部になったきっかけ、語り部になってうれしかったこと、語り部前と後での違いなど聞きたかったです。
- ・自分の身体はもちろん人生をめちゃくちゃにした加害企業チッソ。そのチッソさえ慮って頑張りたいと願う永本賢二さん。もはや仏の領域であろう。JNC社員全員にこの語り部講座受講を義務付けてあげたほうがよい。
- ・音声少し聞きづらい所がありました。永本さんの昔の話から今話を詳しく話して下さったので、梅戸はどうゆう場所なのかなど想像しやすかったです。
- ・もう同じような悲劇をおこしてはならないと改めて思いました。また、永本さんが言われた「さまざまな人の気持ちがあるので、中央の立場になって考える」という言葉が介護の立場でも大切になってくると思いました。
- ・久しぶりに永本さんの講話聞きました。永本さんの表情をもっと見たかったので、お二人の対話の画面がもっと流れればよかったのと思いました。
- ・私も幼少期の梅戸港の風景が思い出され、なつかしさを感じると同時に、まだ水俣病が理解されていない時代だったので、永本さんは患者でもあり、チッソの家族でもあり気持ちでの苦労が大変あられたと思うと辛くなりました。
- ・語り部の方の話を聞かせて頂いたことはありましたが、胎児性水俣病の方のお話は初めて聞きました。お父様がチッソで働いておられたという事で、また、幼少期から見慣れた梅戸港、チッソ工場で産まれた時から水俣病になってしまうというのは本当に辛い事と思いました。幼いころから、痛みや差別等、大変な思いをされていたにも関わらず、詳しく昔の事を話して下さいたり、チッソに対する気持ち、障

害者の方の気持ち、とても前向きに話されていたのが印象的でした。決して人事ではなく、事件を繰り返さないためにも自分の出来る事から思いやりを持って行動していきたいです。

ありがとうございました。

- ・いつも笑顔の永本さんの想いが聞けてよかったです。
- ・マイクの接続状態があまり良くなかったのか、永本さんのお話が聞こえない時がありました。資料に載っているお話は理解出来ました。小学生の時から永本さんと交流をしていた機会があったので、またこのような機会があり嬉しかったです。
- ・実際の水俣病患者様の話を聞く貴重な体験ができ、当時のエピソードやどの様な生活をされていたかなど様々な話を聞くことができ、とても勉強になりました。
- ・前もって資料を読んでいたの、ある程度の情報は得ていたの、話はスムーズに入ってきました。ニコニコと一生懸命、振り返りながらの話し方がとても印象的でした。
- ・今回、永本賢二さんの講話を聞き、水俣病患者の思い、また、これから先二度と公害で同じ思いをする人が出ないようにと強い願いが伝わりました。幼少期から辛い思いをたくさんしてきているのに、永本さんは明るく、水俣を愛していることが感じられました。これからはもっと障がい者との交流を増やしたいとおもった。
- ・永本さんの声が聞き取れない部分や、機器のトラブルでうまく接続できない部分があったが、再度、答えていただき理解出来た。永本さんのお父様は、チツソで働きながら、補償してくれたと講話で聞き双方の立場でご苦勞をされたらと思う。講話を聞く機会をいただき、ありがとうございました。
- ・水俣病の患者でありながら親はチツソに勤めている微妙な立場である永本さんの話は、同じ水俣市に住む者として理解できるし、当時の話も聞いて参考になった。
- ・話を聞くと大変だった事が多く、色々苦勞をされた事を聞いて、今は幸せな人だと思った。子供の頃成長が遅くいじめやよくケガをされていたなど、今もたくさん薬を飲まれている等、水俣病話が聞けてよかったです。聞こえない部分も後でちゃんと話してもらいよかったです。

「水俣病の手帳及び支援制度について」 (熊本県水俣病保健課)

内容 理解できた 13名 あまり理解できなかった 4名

【コメント】

- ・水俣病を理解している人に対しては理解できる内容だったと思うが、手帳の種類の説明のみでなく、利用者がどのような症状を持っているか、適用外の症状にも症状と関連がある点などを説明した方がよかったと思う。患者の具体的なケースを入れて説明して欲しい。
- ・95年の政治解決の人は医療手帳、10年の特措法の方は被害者手帳、この認識は合ってますか？ また、水俣病認定申請医療手帳について、申請中で要件を満たさない方はどうなっているのでしょうか？ 医療費自己負担分を給付と書かれていますが、自己負担できない部分も県が負担ならば全額県負担じゃないのか？
???がたくさんで、ちょっとよく理解出来ませんでした。今度、じっくり教えてください。
- ・難しい内容でしたが、資料を使って説明して下さったので、良かったです。
- ・水俣病の支援制度をあまり知らなかったの、今日いろいろ知れてよかったです。介護のサービスが

対象になっていたので、水俣病の方の介護なども行い、自分自身のスキルアップやたくさんの方を笑顔にしたいです。

- ・再認識出来ました。
- ・被害者の方は安心して治療を受けられるなと思った。
- ・水俣病の被害者の方への支援は初めて知ることが出来ました。まず、水俣病保健課という部署があり、対応されている事も知りませんでした。被害に合われた方に対しての救済の種類もこんなにあるとは知りませんでした。また、手帳も数多くあり、チッソ側から提供されるものもあると聞いて驚きでした。それだけでなく、医療事業等の保障や健康管理まで手厚く保障されており、もう少し身近な問題として関心を持ってみようと思いました。
- ・今まで不思議に感じていた事がわかり、とても助かりました。
- ・お話の内容が少し難しかったです。
- ・水俣病関連の4種の手帳について詳しく学ぶことができてよかったです。
- ・手帳の種類があんなにも多いとは知らず、驚きました。資料だけでは中々覚えきれないなと思いました。
- ・水俣病の手帳にも種類があることを初めて知った。
- ・水俣病の手帳には、多くの種類と同じ名称の手帳でも補償内容が違っていたりして複雑だと思った。また、県によって手帳の色が違うとのことで驚いた。大まかな部分は理解できたと思う。
- ・水俣病被害救済が長く大変事だったからだと思うが、補償、手帳等きめ細かい、あるいは多岐に渡っていて理解が難しかった。
- ・手帳だけでも沢山ある事を初めて知りました。色々水俣病患者に対して対象の方、そうでない方とも決められていて、なぜ全員ではないのかを少し思いましたが、手帳の種類や内容を聞いてよかったです。

研修2 「動き出しは本人から」

「介護のコミュニケーション」

(日本医療大学保健医療学部リハビリテーション学科教授 大堀 具視氏)

内容 役にたった 16名 あまり役に立たなかった 1名

【コメント】

- ・タイトルだけ見ていたら、介助者の方が動き出す、率先して介助するという話かと思っていましたので今回学べて良かったと思う。最後に本で宣伝されていたが、コミュニケーションが大事であり、信頼関係の構築が動き出しを促す重要な点だったと思う。なので、声かけや普段の接し方へのアドバイスがもう少し聞きたかった。
- ・ケアは人と人との1対1のコミュニケーション。動き出しをアプローチするコミュニケーションを無意識に使えるケアワーカーになりたい。すべては利用者本位、自立支援の思想が根底にありますね。
- ・目の前に手すりがあれば自然と持って立とうとするのに、そういう小さな動き出しを見落とし、私達目線で利用者の主体性を奪ってしまっていた。日頃のコミュニケーションと関わりあうことの大切さを実感しました。
- ・動き出しに気づく、待つということがいかに重要であるかと気づかされました。介護現場がなぜ待て

ないのか。「待つ」資質がないのか「待てない」環境があるのか。 介護に直接関わる職種ではない事務方として出来ることを考えていこうと思いました。

- ・日頃の利用者の方との接し方を考えてみると、この方は〇〇ができない、～しなきゃと決め付けて行動することが多いなと気付きました。「できなくなるのではなく、やらせなくなる」はっとさせられました。介助者は、してあげた方が良く、もちろん悪い訳ではありませんが、本人の視点から見ると、「その方の能力や時間、行動したいと思った気持ちまでも奪うことになる」まで考えた事はありませんでした。交わす言葉の一つ一つのコミュニケーションでも全く意味が違うと気づきました。新人の私でも意識していれば、変えられる内容だったので、少しずつでも動き出しを見逃さず、積み重ねて行きたいです。
- ・大堀先生の話聞いて気付かされることが多くありました。 以前、学生の時に同じような話を聞いていたが、現場で働くと、利用者に手を差し伸べてばかりで、利用者の「できること」を少なくさせてしまっていました。 次回からは、利用者の「できること」をもっと尊重していきたいです。
- ・久しぶりの研修で、改めて対人援助の基本を見直すよい機会となりました。
- ・自分達の日頃のコミュニケーションの取り方を見直すことができた研修でした。 介護職にとって大事なことなので、改めて学ぶことがたくさんありました。 映像もいくつかあったため、とても分かりやすく、実際に、利用者でもこんなに自分で動ける人がいるんだと驚きました。
- ・とても役に立ちました。 考えた事のない視点で改めて普段のサポートのしかたを見つめなおせていい機会でした。
- ・利用者第一の支援を考え、全てを支援するのではなく本人が出来ることはしてもらい、出来ない所やどうしても支援がいる時に介助するという考えをもつことが大切だと思いました。
- ・今回の講話で「認知症要介護4」という名前に影響されてはいけないなということに考えさせられました。 実際、この人は介護〇という数字が頭にあること、この人は、いつもこれは出来る、これは出来ないということが決めつけていたこと、利用者様の主体性を奪ってしまっていたかもしれない。出来なくなることは当たり前のことであっても、出来ることをやらなくなることで、出来なくなる。大変勉強になりました。
- ・役に立たなかったわけではないが、以前にも同じ講習を聞いた事があった為
- ・今からでもしてみようと思うと話が沢山ありました。 今まで自分の意志だけの介護をしていた気がしました。 なので、今からは利用者の動き出し、利用者の気持ちを考えて介護しようと思いました。利用者が今から何をしたいのかを考え行動しようと思います。
- ・介助者主体ではなく、ご利用者主体になるように何のための介護技術かを考え、共感・気づき、当り前の関りによる基本を大事にしていこうと思う。
- ・ビデオの中でも同じご利用者様が、介助者によって全介助にもなれば自立にもなっていることに驚いた。ご利用者様に介助者が合わせられるのは当然だと思っていたが、ご利用者様も介助者に合わせておられるのだと考えさせられた。

「研修2を受講して、改めて気づいたことや明日から取り組みたいこと、先生にお尋ねしたいこと」

【コメント】

- ・講演ありがとうございました。相手の意思をシーンで切り取りつつ、連続性を考えることで、物言わぬ

人のことも考えることが出来ると思いました。助けたい気持ちを抑えて、相手の行動を待つか促すなどしてみようと思います。相手が行動できた後にほめるなどすると思いますが、声かけにおいて年下が目上の方に失礼にならない声かけの工夫があれば教えていただきたいです。

- ・ 尋ねる。伺う。間をつくる。日常の忙しさを言い訳にせず、取り組みたいです。

私は、昨年、初任者研修、今年、実務者研修資格を取得しましたが、その講師が利用者のことを「利用者様」と呼んでいて、個人的にはなんだか「お客様は神様」的な意味を感じて、これじゃあ自立支援を促すと言うより、何でもやってあげちゃう感じになりがちだなあと違和感を持ちました。大堀先生は「利用者さん」を使っていて、私も「利用者さん」と呼びたいです。

- ・ 映像の利用者と同じような方がいるので、自分のペースに合わせるのではなく、「やってみないか」と言えるようなコミュニケーションと言葉つかいも気をつけて利用者の笑顔が見れる介護をしたいと思った。利用者に対し、なされるがままの介護をしていた事にも気づかされた。
- ・ いくつもの動画を見せていただいて、介護職ではない私でも本当によく分かる内容でした。何よりも利用者とのかかわりを介助者である本人達が、自分自身のやり方を確認できる貴重な教材だと思いました。

勝手にビデオを回すことは出来ないと思います。現状を認識し、自ら気づいてもらうための動画撮影どのような方法（スタッフの同意等も含め）で、行うことができますか？

- ・ コミュニケーションを意識してみようと思いました。指示ではなく尋ねる、伺う。また、動き出しを見守るためには、安全に本人にケガさせないような技術は必要だと思いました。技術がまだ未熟な分、しっかり利用者に関りを持って、本人がどういう気持ちなのか、観察して会話して、先輩の事も頼りながら、技術以外の面も成長出来たらと思います。貴重なお話ありがとうございました。
- ・ 受講の終盤にあった、今すぐ変えられるコミュニケーションを明日から使っていきたいです。
- ・ コミュニケーションの取り方を改めて見直ししながら、支援にあたりたいと思います。また、「待つ」を心掛けて、気持ちに余裕を持てる様に業務の見直し等も取り組んでみたいと思いました。
- ・ これからは、何をするか、どこに行くか、自分でどこまで起きれるかと聞いてみて、時間がかかっても利用者ができる権利をうばわないようにしようと思います。
- ・ 自分の中で、利用者の方の能力を決め付けてしまっ、動き出しを待っていない時があったなと思いました。無意識のうちに利用者の方の、意思を尊重していない行動もとっていたことを反省したいです。これからは、離床・移乗の時に、本人が少しでも動き出すのを見守ることができるようになっていきます。そのために、利用者の方の能力を決めつけてしまわないようにしたいです。
- ・ 今回の研修を終え、明日からでも上記の考えを頭にいれ、介助していこうと思いました。
- ・ この講義を聞き、次の日からすぐ実践してみました。しかし、これまでの日常で利用者様を「出来ない」と決めつけているところもあり、なかなか上手くいってないところですが、これから待つ（見守る）ということと、一番大事なコミュニケーションを利用者様主体で支援していきたいと思いました。
- ・ まずは声かけし相手の回答の様子を見て動いていこうと思います。相手が何をしたいのか、どこに向かいたいのか、どこまで出来るのかを判断できるようにしていきたいです。

- ・本人の動き出しを尊重したことで本人を含めて出来ないと思っていたことが出来たいくつもの動画を見て、そこにいる職員と同じように驚きと喜びを感じた。私は、まだ一人一人の状態を把握すべき段階で無理は出来ないが、動き出しは本人からをこれから取り組んで、私もご利用者もよい方向に変わっていけばいいと思っている。
- ・ご利用者様も介助者に合わせてくださっていることを常に頭に入れ、待つ介護技術を取り組みたいと思う。

3 機会があったらまた参加したいか。

参加したい 16名 参加したくない 1名

4 研修全般にたいする感想や今後の研修希望等

- ・オンラインは何かしら不備が出て大変ですが、研修会を開いていただいて良かったです。次の機会があれば、水俣には多くの病院や介護施設がありますが、水俣独自の取り組みや社会福祉ネットのような共同できる取り組み、水俣医療の歴史などが知りたい。
- ・きぼう・未来・水俣は「水俣病を伝えるプログラム」という語り部講座をやっていますが、今後の研修是非使ってください。 自社営業になってしまいましたが、よろしくお願いします。
- ・研修会へのご案内ありがとうございました。本来であれば利用者と直接対応する現場職員に参加してもらうべきですが、今回は、事務方で受講しました。 今後は、計画的に職員研修計画の中に組み込みたいと思いますので、年間計画など早目に教えていただければ有難いです。
- ・永本さんがチツソを憎むのではなく、応援していきたいという言葉に感動すると同時に今自分が普通に働ける幸せも感じました。 日頃感じられない事に気づかされ本当に勉強になりました。大堀先生の本をゆっくり読んでみたいと思います。
- ・とても勉強になりました。介護だけでなく、水俣病の講話も聞けてよかったです。ありがとうございました。
- ・初めての介護職で右も左も分からず、コロナ禍で研修も初めてでしたが、とても勉強になりました。ありがとうございました。
- ・どの研修も分かりやすく勉強になりました。 コロナが落ち着いたら実技もしたいです。
- ・特に永本さんの話は、直接聞いてみたいなと思いました。映像では伝わらない、永本さんの感情や思いを聞きたいなと感じました。
- ・今回の研修は PC を使った ZOOM での研修で音声や映像の不祥事はありましたが、しっかりと学ぶことが出来たのでよかったです。今後も介護職としてのスキルアップを目指していきたいと思います。
- ・水俣病の手帳に関して、あれほどの種類があるのを知らなかったのも、良い勉強になりました。
- ・初めてのオンライン講話を受け、ハプニングが多々あり、出来れば普通の講話を聞きたいとおもいました。 介護全般未熟なので、何でも研修があれば参加したい。
- ・話が分かりやすかった。終わった後に質問の時間もあり分からなかった事や詳しい話が聞けて良かったです。
- ・研修会に参加させていただき、貴重なお話を聞かせていただきありがとうございました。